

2015年1月1日～2019年12月31日の間に  
当科において漏斗胸治療および金属バー抜去の治療を受けられた方  
2020年4月1日～2020年10月31日の間に  
当院救急外来を受診し胸部CT検査を受けられた4～40歳までの方  
2018年1月1日～2020年10月31日の間に  
小児科・小児外科に入院し胸部CT検査を受けられた  
4～40歳までの方へ

「幾何学的形態測定法を用いた漏斗胸胸郭の形態解析」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学小児外科学 講師 久山寿子  
研究分担者 川崎医科大学小児外科学 教授 曹英樹  
川崎医科大学小児外科学 准教授 吉田篤史

## 1. 研究の概要

漏斗胸は最も頻度の高い先天性胸郭形成異常であり、Marfan症候群などの結合織疾患に合併することが知られていますが、はっきりした原因についてはわかっていません。本研究では幾何学的形態測定学 (geometric morphometrics=以下GM) を用いて漏斗胸胸郭の形態を解析し、術後および正常胸郭と比較します。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象者

2015年1月1日～2020年12月31日の間に川崎医科大学附属病院小児外科において漏斗胸の手術で金属バー抜去の治療を受けられ、バー抜去が終了した方約500名を研究対象とします。また正常胸郭群として、2020年4月1日～2020年10月31日の間に当院救急外来を受診し胸部CT検査を受けられた4～40歳までの方、2018年1月1日～2020年10月31日の間に小児科・小児外科に入院し胸部CT検査を受けられた4～40歳までの方、約100名を対象とします。

### 2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026年3月31日

### 3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において漏斗胸の手術を受けられ、バーを抜去する手術を受けられた方で、研究者が術前術後の胸部CTのDICOMデータを用いて、3DslicerというソフトウェアでGPA分析、主成分分析を行い、座標値をデータ化します。術前術後で形態がどのように変化したか解析を行います。また、

2020年4月1日～2020年10月31日の間に当院救急外来を受診し胸部CT検査を受けられた4～40歳までの方、2018年1月1日～2020年10月31日の間に小児科・小児外科に入院し胸部CT検査を受けられた4～40歳までの方の胸郭を正常胸郭とし、同様に解析を行い、漏斗胸胸郭と比較します。

#### 4) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、身長、体重、画像情報等

#### 5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学小児外科学実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

#### 6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年12月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

#### < 問い合わせ・連絡先 >

川崎医科大学附属病院 小児外科

氏名：久山寿子

電話：086-462-1111 内線 26511（平日：8時30分～17時00分）

ファックス：086-464-1192

E-mail: pedsurg@med.kawasaki-m.ac.jp

#### 3. 資金と利益相反

本研究は学内研究費を用いて行います。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。